朝日新聞　和歌山版
平成 21 年 8 月 18 日(火)

世界遺産を活用
観光プラン作成

田辺・本宮町商工会

田辺市の本宮町商工会（泉庄治会長）は、経済産業省などの補助事業として、世界遺産・熊野古道の資源を活用とした独自の観光プランを作った。十二ひとえを来た結婚式や、誕生日などの記念日を過ごすプランなどがある。

「着地型観光」の開発を目指すとしている。着地型は、これまでの旅行のように出発地の業者がプランを作るのではなく、行き先の業者が地元ならではの情報を元にプランを作ってもてなす。

本宮町商工会は「蘇(よみがえ)り・導き・癒(いや)やし」をテーマにプランを作った。案内役として、熊野本宮大社の神鳥である3本足のカラス、八咫(やた)ガラスの「八咫之助」「八咫姫」の着ぐるみを制作した。

地元をアピールするため結婚式などの宿泊施設は本宮温泉郷の旅館、ホテルが協力する。また「めはりずし」「温泉がゆ」などの郷土料理や、しそ、あゆ、音無茶などの農産物を大都市圏でPRして熊野を売り出すとしている。泉会長は「地元業者と連携して熊野古道など歴史を感じさせる本宮町を全国にアピールしていきたい」と話している。

熊野をアピールするための平安衣装や八咫ガラスの着ぐるみ＝田辺市役所